



沖縄タイムス
2011.6.17 (金)

県、防災計画改訂へ

震災で従来計画を検証

検討委初会合



東日本大震災を受け、従来想定してきた地震・津波の状況等を専門家と関係機関で検証し、県防災計画の見直し作業に反映させる第1回県地震・津波想定検討委員会が16日、県庁内で開かれた。本年度末までに、

東日本大震災を検証し、県防災計画の見直しを検討する県地震・津波想定検討委員会

16日、県庁

防災計画を改訂する予定。

会議の冒頭、又吉進知事公室長は「県民のニーズに
応えられるものをつくって
いきたい」と話した。

委員は5人の有識者と気象、危機管理、農林水産、土木建築などの行政担当者。委員長に選出された仲座栄三琉大教授は防災の在り方として「自分がどういうところに暮らしているか、歴史は何を語ってきた

か、知るべきだ。自発的防災避難こそが最も大事だ」と訴えた。

沖縄気象台の森博一地震火山課長が東日本大震災の規模について説明。各委員からは「全体的なスキームを立て直さないと(計画は)結局は数年後に駄目になる」「住民とのコミュニケーションを持たない計画は意味を持たない」などの意見が上がった。

委員会は今後3回程度開かれ、計画見直しの方向性について提言をまとめる。その後、庁内関係部局で設置する検討委員会で、防災計画と地震減災アクションプランの改訂を行う予定。